

平成 29 年度 会津若松市 男女共同参画に関する意識調査報告書 《概要版》

【調査概要】

会津若松市では、「すべての市民が、性別にかかわらず一人の人間として尊重され、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現を目指し、様々な施策に取り組んでおります。

本調査は、「第4次会津若松市男女共同参画推進プラン」に代わる新たなプラン策定のための基礎資料とするとともに、男女共同参画に関する市民の意識及び生活実態の変化の把握並びに社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を総合的に調査し、今後の施策の方向性等の参考とするために実施したものです。

●調査対象：会津若松市在住の 20 歳以上の男女 2,000 人 ●調査期間：平成 29 年 5 月 26 日～6 月 30 日
●調査方法：郵送配布・郵送回収 ●有効回収数：722 人【回収率 36.1%/男性 319 人 (44.2%)、女性 397 人 (55.0%)、性別無回答 6 人 (0.8%)】

※ 本概要版は、本調査の主な調査結果を抜粋して作成しています。

詳細は「会津若松市男女共同参画に関する意識調査報告書（平成 29 年度）」をご参照願います。



※「男女共同参画」とは 性別による固定観念にとらわれず、男女が社会の対等な構成員として「自分らしく」生きることができ、あらゆる分野でともに考え、ともに行動し、ともに責任を担うことをいいます。

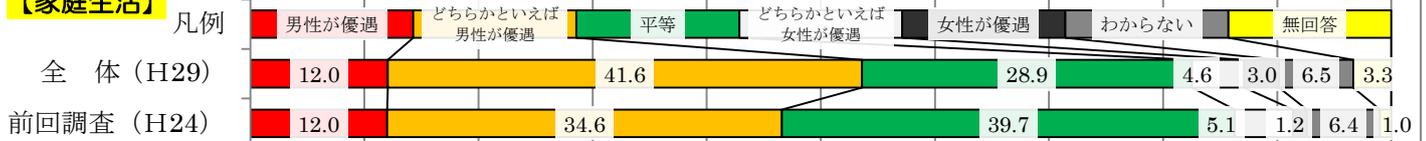
1. 男女の地位の平等感

依然として、習慣・しきたりなど社会全体において「男性優位」と感じている人は多いですが、分野によっては男女の地位の平等感が高まっているところもあります。

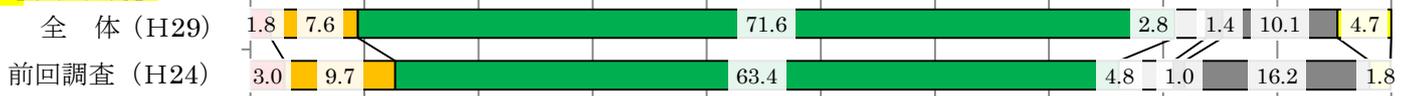
○「平等」と回答した割合が多い分野は、順に「学校教育（71.6%）」、「自治会や地域活動（33.4%）」、「法律や制度（29.6%）」となっています。学校教育については、前回調査よりも若干増えています。

○「男性が優遇」及び「どちらかといえば男性が優遇」と回答した割合が多い分野は、順に「政治の場（72.1%）」、「習慣・しきたり（63.4%）」、「社会全体（63.0%）」、「職場（54.8%）」、「家庭生活（53.6%）」となっており、前回調査と比較し微増しています。

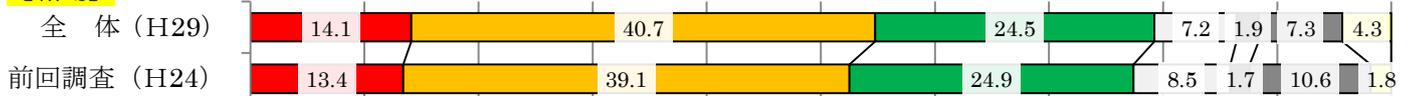
【家庭生活】



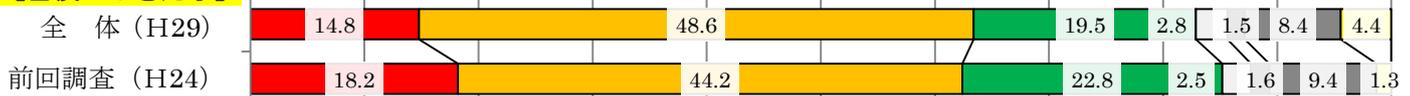
【学校教育】

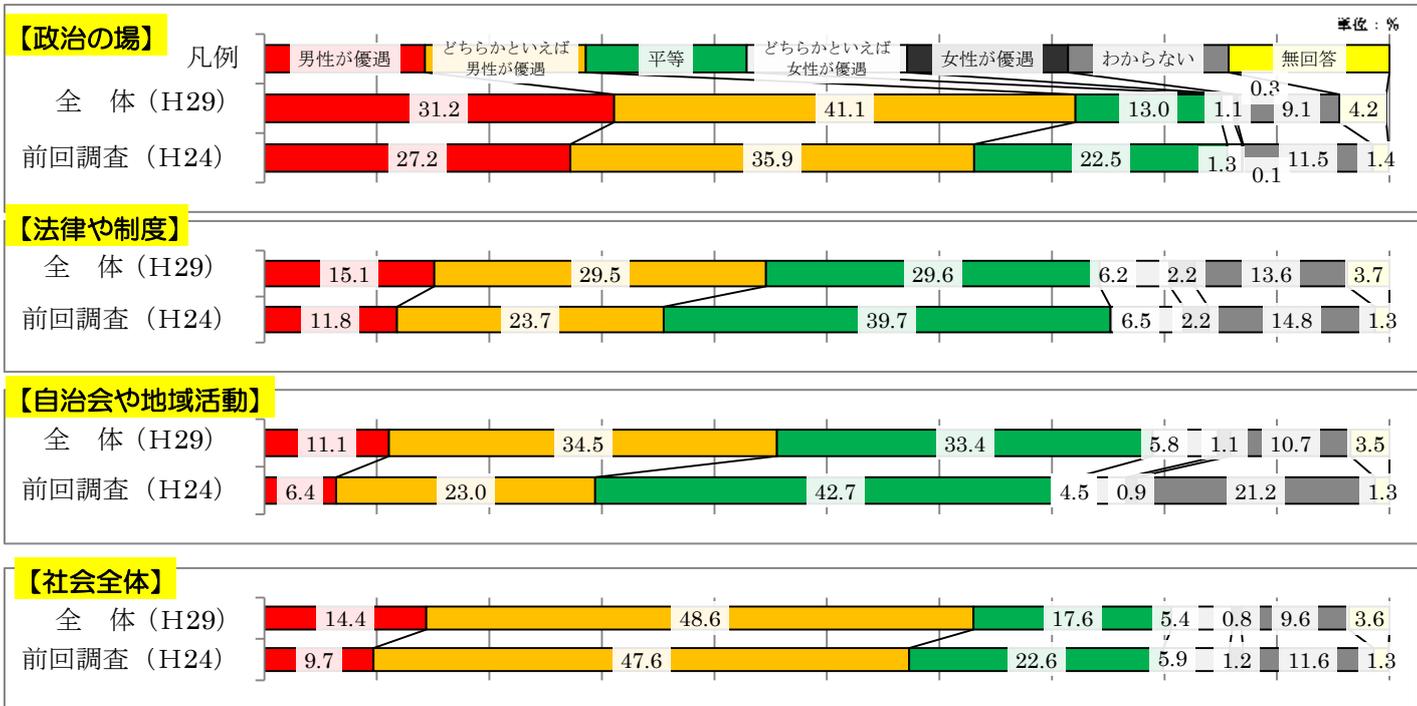


【職場】



【習慣・しきたり】





2. 男女の生き方

依然として女性の生き方は「家庭優先」、男性の生き方は「仕事優先」と考える人が多い傾向と言えますが、男女ともに「仕事と家庭生活・地域生活との両立」を望む回答が多くなっています。

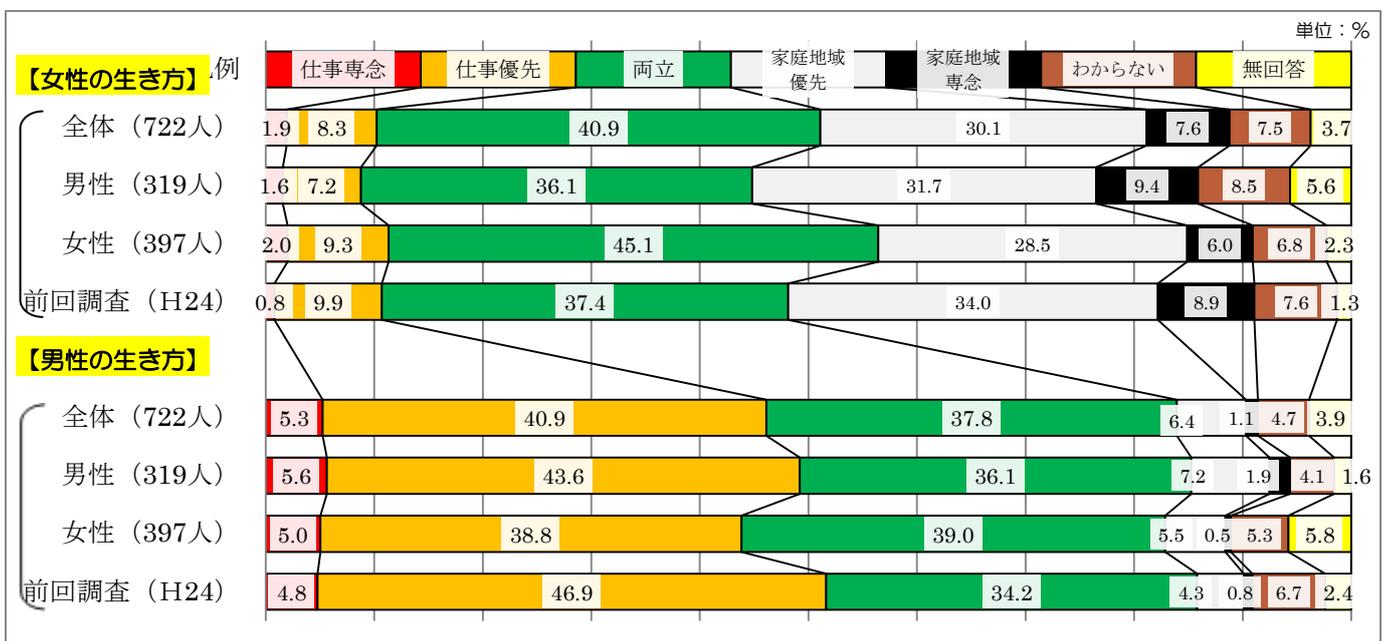
【女性の生き方について】

○「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（40.9%）」の回答が最も多く、次いで「家庭生活または地域活動を優先（30.1%）」となっています。前回調査と比較し、両立の割合が若干増えています。

○性別で比較すると、男性においては、「家庭生活・地域活動に専念」・「家庭生活・地域活動を優先」の回答が女性の回答よりやや多くなっています。一方、女性においては、「仕事優先」・「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の回答が男性の回答より多くなっています。

【男性の生き方について】

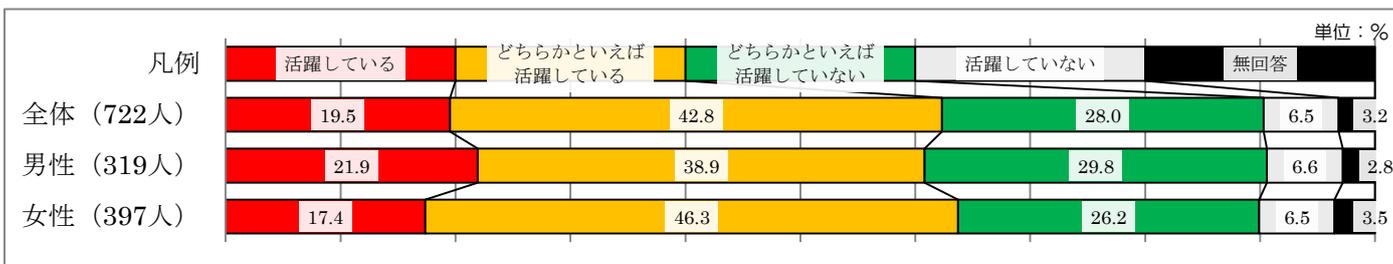
○「仕事優先（40.9%）」の回答が最も多く、次いで「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（37.8%）」となっています。前回調査と比較し、仕事優先の割合が少なくなっています。



3. 仕事や地域活動での女性の活躍

男女ともに6割以上の方が「女性は活躍している」と感じています。一方で、出産等により男性と比べキャリア形成が難しいこと、男性優位の考え方が変わっていないことなどから、「女性が活躍していない」と感じている人も3割程度見受けられます。

- 【活躍していると思う理由】の設問項目では、順に「管理職ではないが活躍する女性が増えている（61.3%）」、「女性のキャリア意識が上がっている（34.9%）」、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退職が減っている（33.1%）」などの回答となっています。活躍していないと思う理由では、順に「出産・育児などのため男性に比べキャリア形成が難しい（48.2%）」、「男性優位の考え方が変わっていない（45.4%）」、「長時間労働の慣習が改善されていない（26.9%）」などの回答となっています。

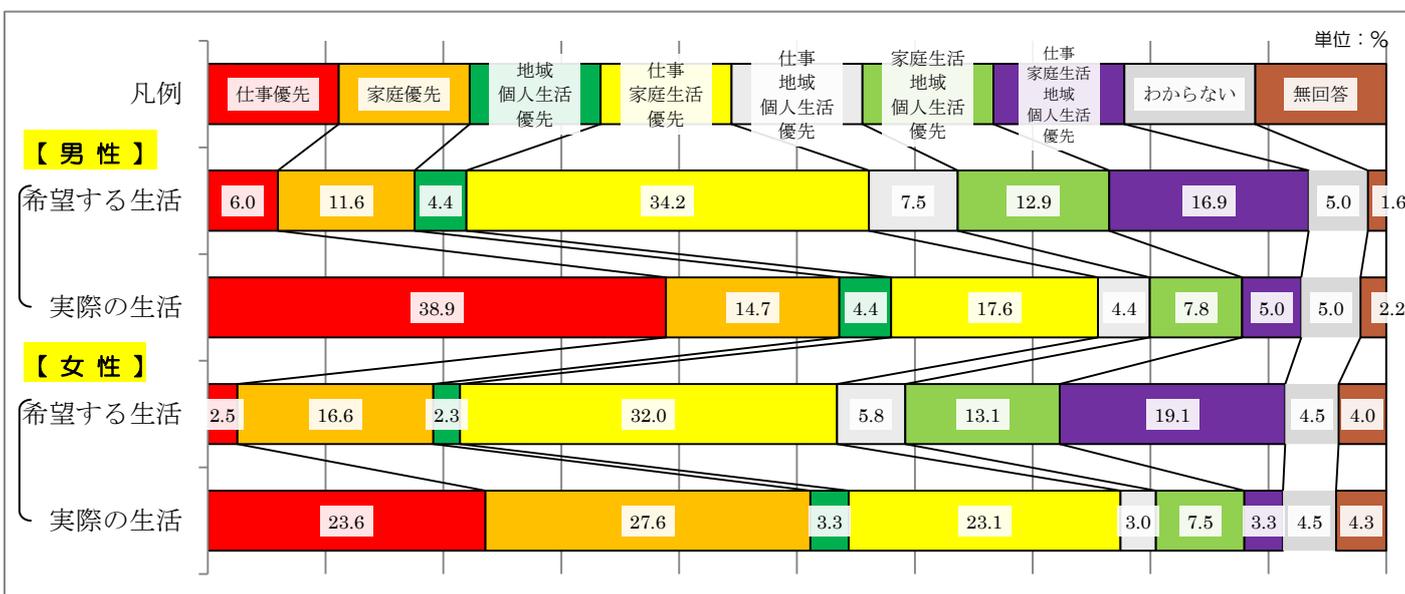


「女性のキャリア意識が上がっている（34.9%）」という回答がある一方で、「女性のキャリア意識が向上していない（26.1%）」という回答もあり、女性のキャリア意識をどう評価するかによって、活躍に対する感じ方に差が出ていることが伺えます。

4. 希望する生活と実際の生活

男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい（両立）」と考える人は多いものの、実生活では「仕事優先」や「家庭優先」になり、ほとんどが希望どおりに過ごせていない状況が表れています。

- 男女ともに、「仕事」、「家庭生活」、「地域や個人の生活」、それらをそれぞれの状況に合わせて両立させたいと希望しながらも、実際の生活では「仕事」や「家庭」優先の割合が高くなっています。
- 実際の生活における「仕事優先」の割合を希望する割合との対比で見ると、男性が約6.5倍、女性が約9.4倍となっています。「仕事優先」を希望していないにもかかわらず、実生活で「仕事優先」になっている割合が、男性より女性のほうが高いことが分かります。

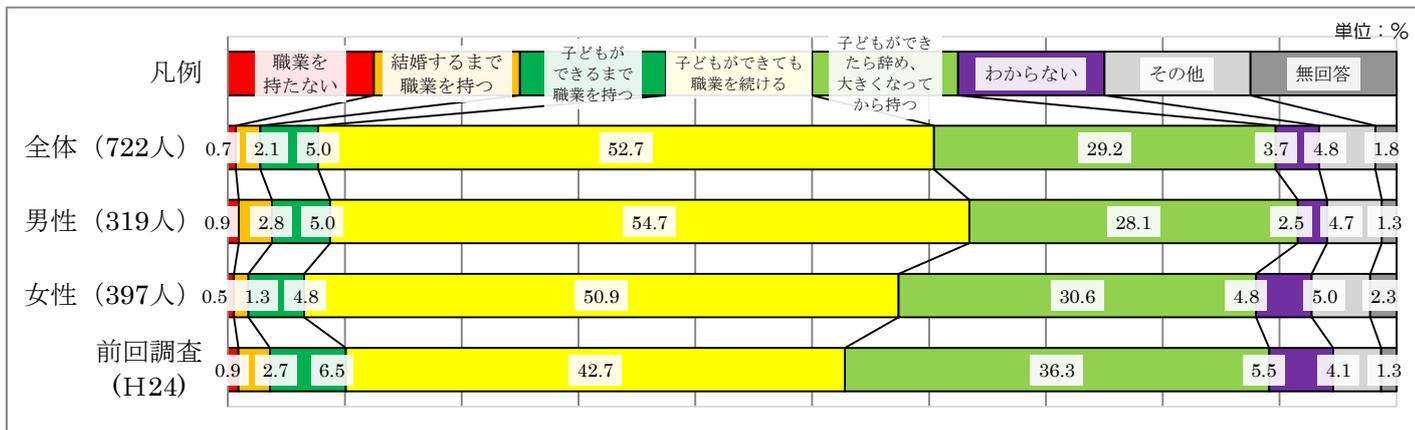


5. 女性の就業のあり方

男女ともに「就業継続型」の考え方が最も多くなっており、「共働き」に対する希望が比較的高いことが推察されます。

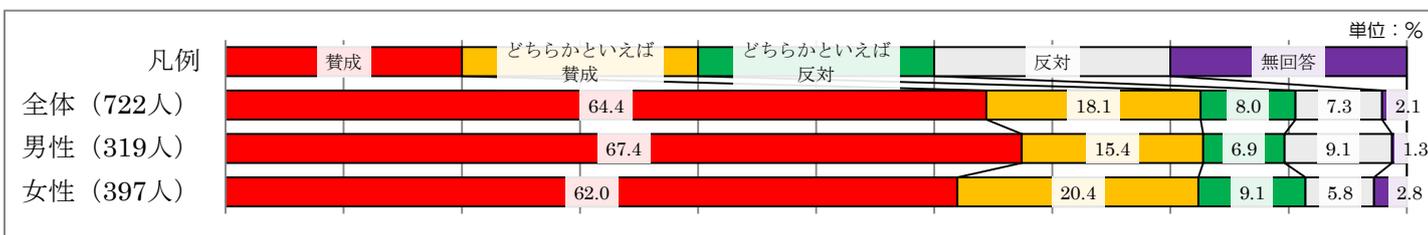
○男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という就業継続型の考え方が半数以上を占めています。

○前回調査と比較し、就業継続型が10ポイント増加し、中断再就職型が7.1ポイント減少、「子どもができてまでは職業を持つほうがよい」と「結婚するまでは職業を持つほうがよい」は若干減少しており、退職や一時離職をせずに就業継続するほうがよいと考える人が増えています。



6. 男性の育児休暇取得について

男女ともに「賛成派」が多く、男性の育児参画に積極性が見られる一方で、育児休暇等を取得できるような体制・職場環境づくりの必要性、育児や家事、経済的な不安などの声も見受けられます。



<次のような意見や課題の声がありました>

- 取得できる体制・環境が整っていない
- 他の社員への負担が増えることが心配
- 社会的評価が下がるのではという不安
- 乳幼児から父親も関わりを持って子育てした方がよい
- 家族にとっては良いこと・助かる
- 収入が減ってしまう不安
- 家事・育児への理解が深まる
- 女性の仕事への理解が進み、社会復帰にプラス など



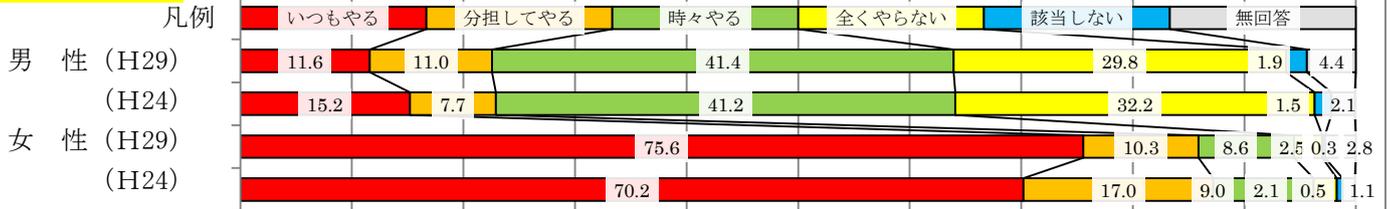
平成28年度の男性の育児休業取得率は全国で3.16%とまだ低い現状ですが、本調査では「賛成派」が8割以上であり、取得しやすい環境整備や意識づくりに取り組むことで、男性の育児休業取得者が増えていくことが期待されます。

7. 家庭生活での役割分担

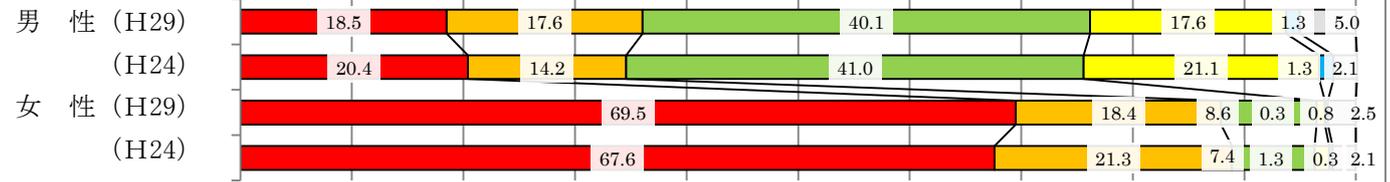
依然として家事全般を女性が担っている現状ですが、一部では男女の意識の変化も見受けられます。

○8つ全ての項目において、「分担してやる」と回答している割合は1~2割であり、女性が「いつもやる」と回答している割合の方が高くなっています。しかしながら、「洗濯」以外の項目について、男性が「全くやらない」という回答よりも、「時々やる」という回答の割合の方が高くなっています。

【食事のしたく】



【後片付け】



【掃除】



【洗濯】



【ふだんの買い物】



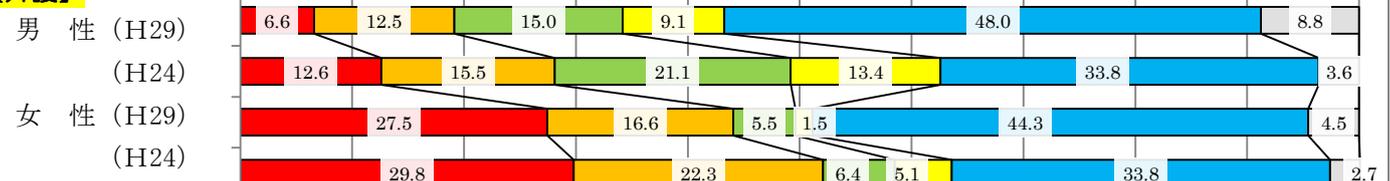
【地域行事】



【育児】



【介護】

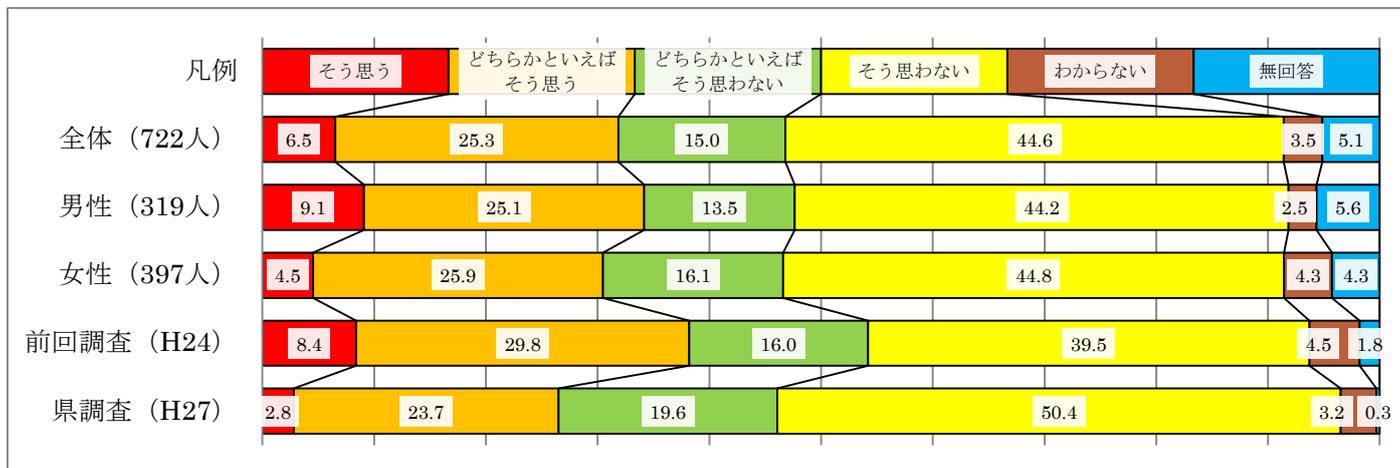


8. 結婚・家庭・離婚に関する考え方 <夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである>

「夫は仕事、妻は家庭」のような固定的性別役割分担の意識が比較的低い結果となっています。

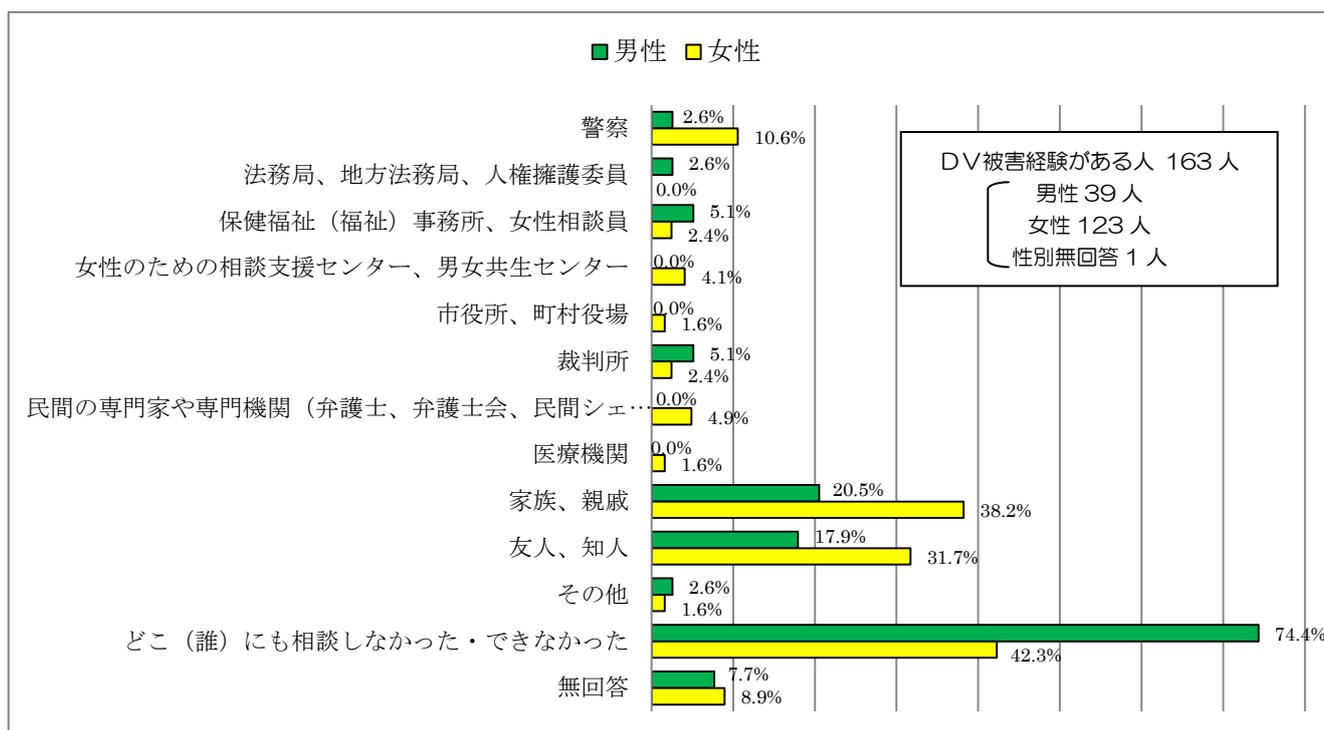
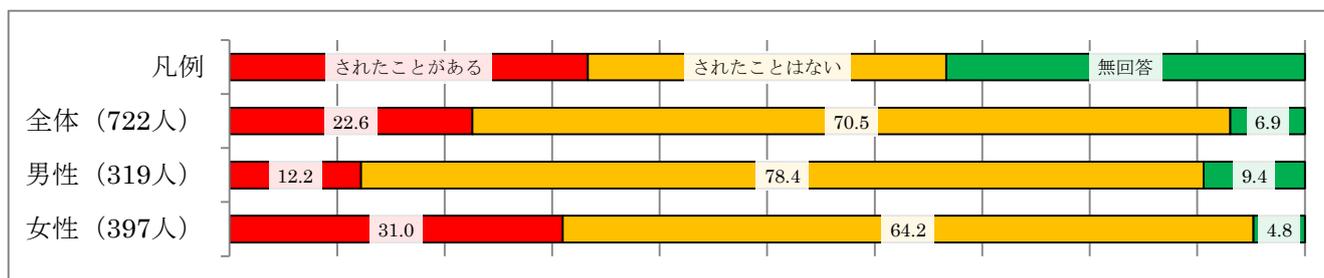
○「どちらかといえばそう思わない」・「そう思わない」という反対派は5~6割を占めていますが、賛成派は若干男性のほうが割合が高いことが伺えます。

○前回調査と比較すると、反対派が増えており、賛成派は3割程度となっています。また、県調査と比較して、ほぼ同様の傾向となっています。



9. 配偶者等からの暴力 (ドメスティック・バイオレンス=DV)

女性の約3割、男性の約1割の人がDVの被害経験があると回答しています。被害経験者のうち、女性の約5割、男性の約7割は誰にも相談していません。

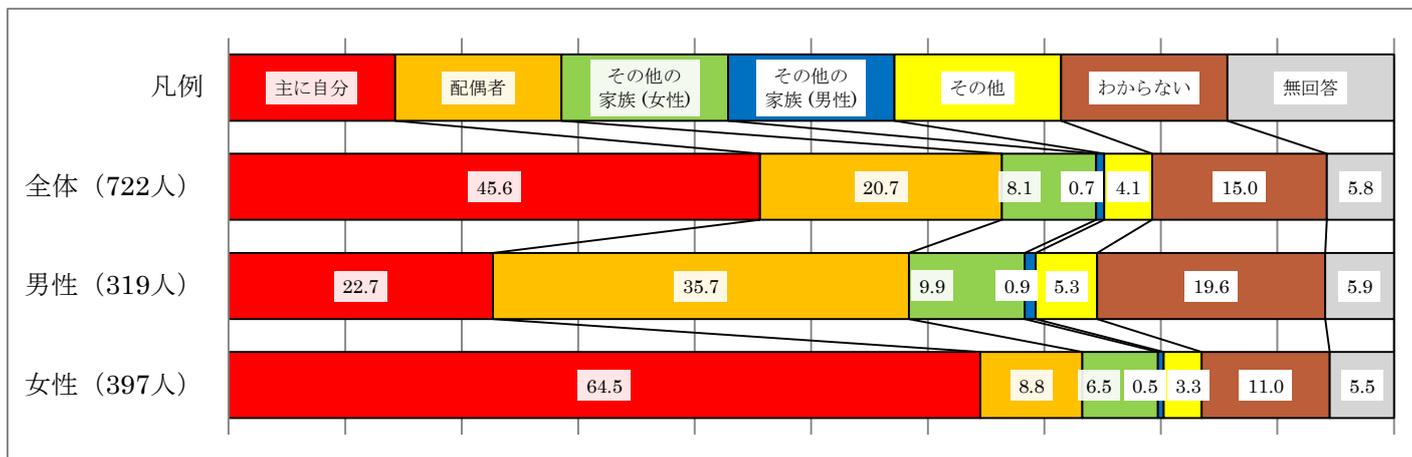


10. 介護について <自宅で介護する場合、主に誰が介護をすることになるか>

「介護は女性が担う」という意識が男女ともに多いことが見受けられます。また、性別により意識の違いがあるとともに、家族みんなで分担するという声もありました。

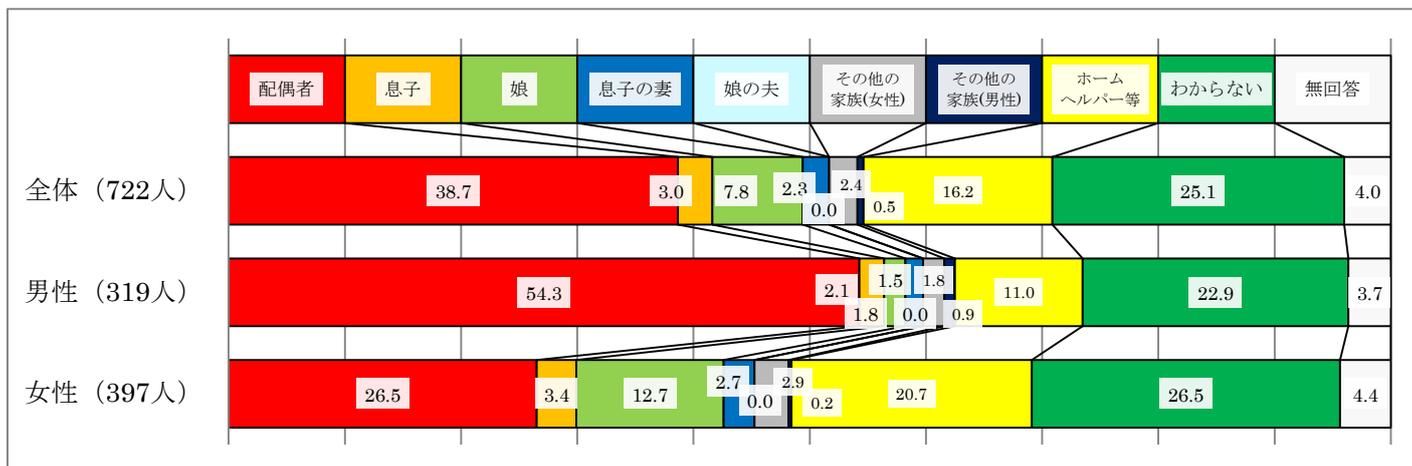
【家族を自宅で介護する場合】

- 「主に自分」と回答した女性の割合が64.5%と圧倒的に多く、男性の約3倍になっています。
- 男性は「主に自分(22.7%)」と答えた人よりも、「主に自分の配偶者(35.7%)」と答えた人の割合が13ポイント高くなっています。
- 女性は「主に自分の配偶者(8.8%)」と答えた人の割合は低くなっています。



【自分が自宅で介護される場合】

- 男性は「配偶者(54.3%)」による介護を希望される方が半数以上となっています。
- 一方、女性は「配偶者(26.5%)」による介護を希望される方が多いものの、「ホームヘルパー等(20.7%)」の在宅福祉サービスによる介護を希望される方も多く、また「娘(12.7%)」と回答した方も男性に比べ高い割合となっています。



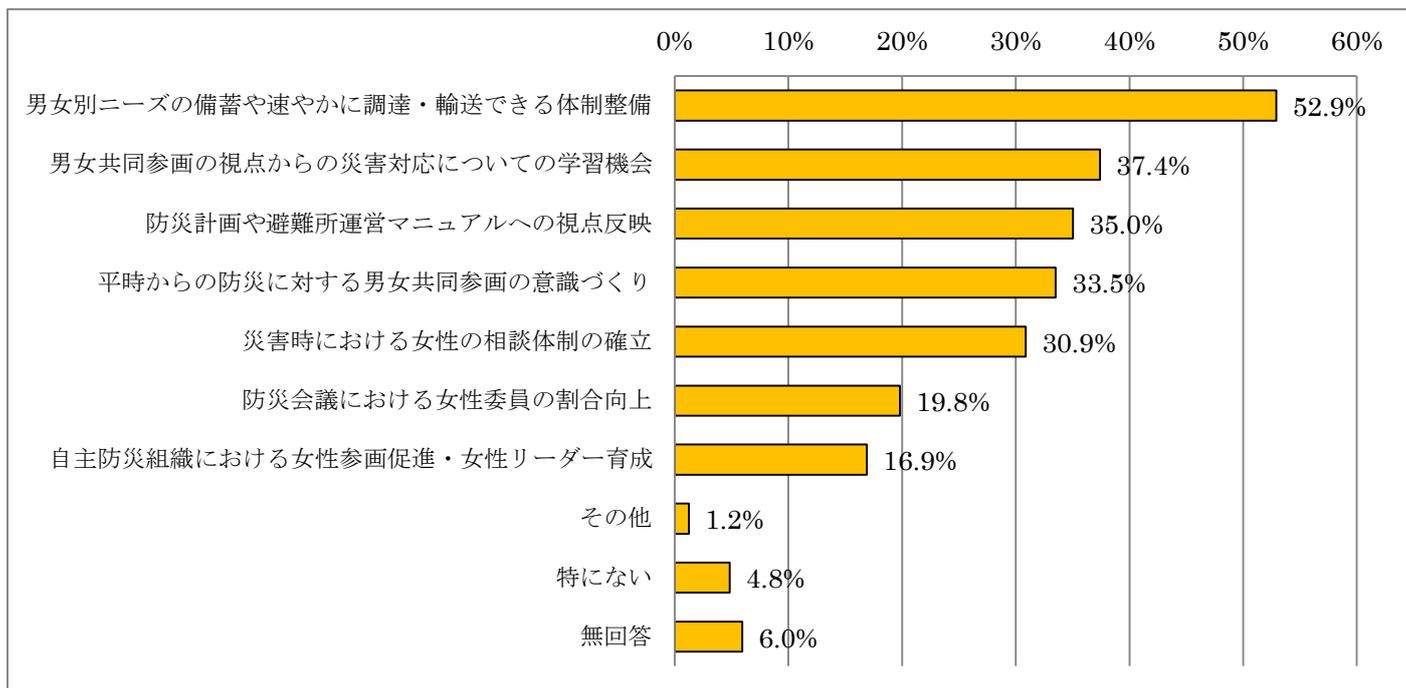
【家族に介護が必要になった場合、どのようにしたいか】という設問に対しては、「ホームヘルパー等を利用しながら主に自宅で介護(41.8%)」、「老人ホーム等の施設で介護(33.3%)」の回答となっています。

また、自分に介護が必要になった場合には、「老人ホーム等の施設で介護(42.4%)」、「ホームヘルパー等を利用しながら主に自宅で介護(33.3%)」の回答となっています。

「介護は女性が担う」という意識が男女ともに多いことが見受けられますが、「わからない」と回答した方も2割以上の結果となっています。人口減少・少子高齢化が進む中で、介護のしかたや担い手についても考えていく必要があります。

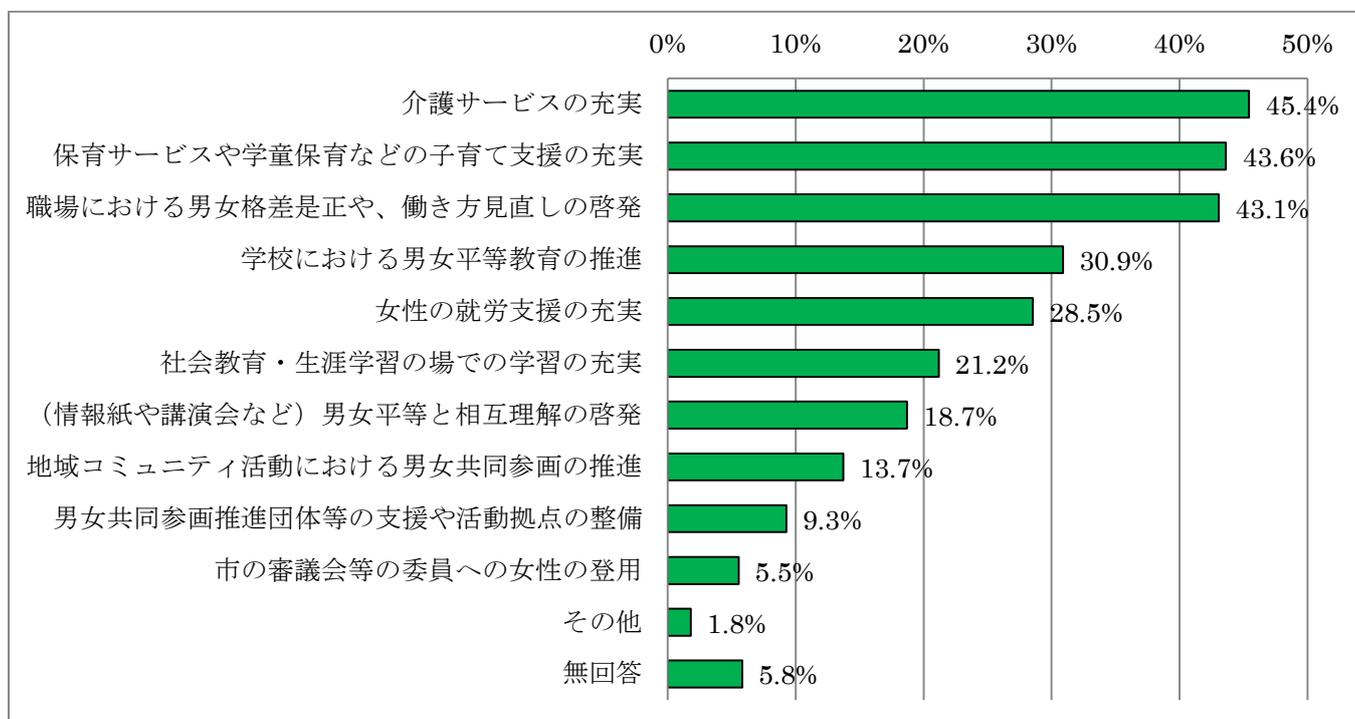
1 1. 防災について <防災分野における男女共同参画推進のために必要なもの> (複数回答3つまで)

「男女別ニーズに応じた物資備蓄や速やかに調達・輸送できる体制整備」や「男女共同参画の視点からの災害対応の学習機会」、「防災計画や避難所運営マニュアルへの視点反映」が必要という声が多くなっています。



1 2. 「男女共同参画」を実現するために会津若松の施策に望むもの (複数回答3つまで)

介護や子育てなど家庭生活や、就労関係など生活の中で現実に直面している課題等の施策の充実を望む回答が多くなっています。



介護サービスや子育て支援、職場における男女格差の是正や働き方の見直しについての施策を望む回答が多いほか、大人の世代のための学習機会や、様々な団体同士の横のつながりを期待する声もありました。

このたび、平成 29 年度に市民の方 722 人に回答していただきました、「男女共同参画に関する意識調査」の結果がまとまりましたので、一部抜粋してご報告します。

【男女の地位の平等感】

○学校教育の場においては、「平等」と感じている割合が 7 割を超えています。一方、政治の場や習慣・しきたり、社会全体においては、6 割以上の方が「男性優遇」と感じています。

【女性の生き方】

○「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（両立）」の回答が 4 割以上と最も多く、次いで「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先」の回答が多くなっています。

【男性の生き方】

○「仕事専念・優先」の回答が 4 割以上と最も多く、次いで「両立」の回答が多くなっています。

【女性の就業のあり方】

○男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい（就業継続型）」という考え方が最も多くなっています。

【夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】（固定的性別役割分担意識）に対する意識

○反対派（そうは思わない・どちらかといえばそうは思わない）が半数以上を占めていますが、賛成派については男性の割合が高くなっています。

【介護について】

○男女ともに、家族に介護が必要になった場合には、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながらの自宅介護」を希望する方が多くなっています。一方、自分に介護が必要になった場合には、「施設入所」を希望する方が多くなっています。

○自宅で介護する場合の担い手について、男女ともに「女性が担う」という意識が多いことが見受けられます。

以上のことから、「女は家庭、男は仕事」といった固定的性別役割分担の意識が根強く残りつつも、男女ともに「仕事と家庭生活・地域生活との両立」を望む声が多く、「女性の就業のあり方」については、「子どもができてずっと就労を継続する（就労継続型）」と考える人が全体的に多くなってきています。そのため、介護や子育てサービスの充実や、職場における男女格差の是正、働き方の見直し、女性の就労支援の充実など、特に女性が現実に直面している課題等の施策の充実が望まれています。

今後は、このたびの意識調査の結果を市の施策に反映させるため、新たな男女共同参画推進プランを策定していきます。



市ユニバーサルデザイン推進
キャラクターゆにはくん

男女共同参画は、すべての人にやさしいまちづくり
～ユニバーサルデザイン～の取組のひとつです。

平成 29 年度 会津若松市男女共同参画に関する意識調査報告書 《概要版》

発行：会津若松市企画政策部企画調整課 協働・男女参画室

〒965-8601 会津若松市東栄町 3 番 46 号

TEL.0242-39-1405 FAX.0242-39-1400

<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

この報告書は市のホームページでも掲載しています